



東京部会(第 80 回)	
日 時:	2015 年 12 月 16 日 (水) 18:30-20:30
場 所:	日本大学経済学部本館本館 1 階 A11 教室
参加者:	[順不同] 篠原総一(京都学園大学)、宮尾尊弘(筑波大学)、加藤一誠(慶応義塾大学)、杉田孝之(千葉県立津田沼高等学校)、石山晴美(東京証券取引所)、鈴木深(東京証券取引所)、大倉泰裕(千葉県立松戸向陽高等学校)、塙枝里子(東京都立府中東高等学校)、中沖栄(清水書院)、梶ヶ谷穰(昭和音楽大学)、三枝利多(目黒区立東山中学校)、滝沢弘勝(筑波大大学院)、中川雅之(日本大学)、新井明(上智大学非常勤講師)、以上14名。
<p>【内容要旨】</p> <p>(1) 年次大会の内容構成を確認し、以下のように確定した。</p> <p>タイトル「経済教育:新しい実践の試み」</p> <p>第一部、高等学校の新しい実践</p> <p>上原功先生「公平な取引について考える」</p> <p>松井克行先生「18歳選挙権と経済教育－投票行動を考えよう－」</p> <p>野間敏克先生「直接金融、間接金融の教え方・再論」</p> <p>第二部、高校入試問題を活用した新しい中学経済教育</p> <p>山下豊先生(札幌部会)、奥田修一郎先生(大阪部会)、関本祐希先生(大阪部会)から入試問題分析と提案。</p> <p>今後、後援申請、情報宣伝などを行ってゆくことが確認された。</p> <p>関連して、篠原先生から、選挙の経済学に関して、かつてアメリカの教材の事例(投票行動の経済分析をコストとベネフィットで分析している事例)を見たことがあり、その教材は望ましいものではなかった。自分が投票に行き、それが自分のプラスになるという期待効用が0に近いにもかかわらず、なぜ投票に行かなければならないのかを説明するような報告を期待したいというコメントがあった。</p> <p>(2) 16年夏の経済教室の日程確認を行った。</p> <p>来年は、8月11日が山の日で休日となるため、以下のような日程とすることになった。</p> <p>8月4・5日名古屋 8月8・9日大阪 8月18・19日東京高校 8月22・23日東京中学</p> <p>(3) 冬の教室の準備状況・申し込み状況の確認を行った。</p> <p>現在の状況を確認した。申込者数がやや停滞気味なので、昨年数を超えるように、冬休み年明けにさらに取り組みを強めることとなった。</p> <p>(4) 部会報告などは以下の通りである。</p> <p>12月12日(土)におこなわれた名古屋部会に、部会間交流で杉田先生(津田沼高校)が派遣され、その報告とその時資料が配布された。</p> <p>(5) 教材紹介が二件あった。</p>	



a. 梶ヶ谷先生(昭和音楽大学)が監修された「見えないお金の物語」(日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会)が紹介された。この教材は、2012年に発行されて今回は四回目の改定とのこと。ローンやクレジット、電子マネーの学習の参考にしてほしいとのことである。

b. 教材検討委員会ですすめていた、「アリとキリギリス」(時間の経済学)の教材、「たこ焼き屋」(企業)の教材がほぼ完成したとの報告があった。

(5) 宮尾先生から報告が二件あった。

a. 「イシュー(論点)中心の経済学の学習例」

「冬の経済教室の in Tokyo」の主要部分である「イシューから始める学習」について、今回は宮尾先生がアメリカや日本の大学で実際に取り上げた具体例の概要を紹介された。「市場の役割と限界」、「貯蓄より投資へ」、「経済発展とCO₂排出規制」の3つのテーマに関わる4つのイシューの例が示された。それらのイシューは、生徒が現実の経済問題や経済政策としてマスコミ報道などで触れているもので、それについての経済学的な理解を深めて自分の意見を持つことに役立つ点が強調された。また与えられた問題の解決策を考えるだけでなく、問題と論点を見つけて自分の意見を持つことの訓練にもなることが重要とのことであった。

質疑では、そのようなやり方をうまく進めるためには、生徒側に十分準備する時間と教員側が問題の重点をよく理解していることが必要で、そのための工夫が必要なのことが確認された。いずれにしても、教員と生徒が可能な限りでこのやり方を活かして、少しずつ慣れていって成果を上げることが大切であるという結論に達した。

b. シェアリング・エコノミー(共有経済)を経済学で考える

宮尾先生が、ここ数年アメリカで急速に拡大している「シェアリング・エコノミー」に関する紹介を行い、その経済学的な分析と問題点をまとめて提示された。例えば、日本ではこのところ「民泊」が大きく取り上げられているが、これは広く個人間の財やサービスの有料での貸し借り(シェア)という「シェアリングエコノミー」の一例と考えられる。

その経済的分析のポイントは、通常の「市場の役割と限界」の分析パターンに似ていて、プラス面では取引費用や情報非対称性が削減されて効率性が増すこと、他方マイナス面では住宅地区に業務活動が広がることに伴う負の外部効果が市場では考慮されないことが指摘された。それに加えて所得分配上の効果については、低所得者や失業者には就業機会が増えるプラスがあるが、中間所得層は既存のビジネスが侵食されるのでマイナスという効果も考えられ、その両面を考慮する必要も強調された。さらに日本での問題点として、このようなシェアリング・エコノミーの理解が進んでおらず、ともすればマイナス面だけが表面化しており、また所得分配上の影響についての分析がほとんどなされていないとのことであった。

最後に篠原先生よりコメントがあり、中国で「ウーバー」のようなライドシェアが急速に進んでいること、またこのような個人間の取引や貸借が色々な分野に拡大しており、例えば金融の分野でも「フィンテック」と呼ばれる新しい金融サービスが使われ始めていることなどが指摘された。

残念ながら時間が無く、報告の後の討論ができなかったが、貴重な問題提起であった。

(6) 今回は、宮尾先生が二つのテーマを報告されるなど、新しい教育法、新しい経済の動向に注目する、よい機会となった。エコノミストの問題提起を、いかに現場の教員が受け止めるか、冬の教室が楽しみである。なお、終了後、懇親会を行い、一年の活動を振り返った。

(文責、新井)

次回開催予定:16年2月25日(木)19:00~21:00。場所は日本大学経済学部。議題は、年次大会準備、夏の教室内容検討、教材に関するディスカッション、情報交換など。なお、1月、3月の部会は冬の経済教室、年次大会とそれぞれ合同で簡単な事務報告のみとなる予定。